

支援に感謝

## 農力開発

<http://miyanou.myswan.ne.jp/>**「私の仕事コンクール」全国高等学校長協会会長賞受賞  
農業・園芸科 2年 村上善春くん**

今回、「私の仕事コンクール」に出そうと思ったのは、私の意見をより多くの人々に聞いてもらいたいと思ったからです。普段主張をしない私ですが、震災以降、私の出身地の浦戸諸島はじめ、まだまだ不便な生活をしている方々に勇気や希望を持って頂きたいと考えたことが私の背中を押ししてくれました。

「私の仕事コンクール」に書いた内容は次のとおりです。

- ①地元浦戸の方々と一緒に自分も島のために何かをしたい。
- ②現在宮農で勉強している畜産で復興の役に立ちたい。

今回素晴らしい賞をいただくことが出来ました。今私は2年生です。今後地元復興のために自分なりに考えて宮農で勉強していきたいです。これを励みに大学に行き自分の夢を叶えたいと思います。

## 一本の電話

農場長 川口友和

電話・・・電話機を用いて通話すること。辞書にはそう記載されている。しかし、本校に掛かってくる「一本の電話」には、それぞれの想いも一緒に運ばれてくる。

地域への農産物販売が授業で行われていく頼もしく思える。授業として実践している栽培した新鮮・安心な農作物や加工品を楽

として生徒たちのキャリア教育の一環と先日、生徒による農産物販売終了後、「農産物がおいしかった」「生徒たちの一い清々しい販売姿勢にこちらまで元気をもをいただくと、電話を受けた私までうれし

ば、いつでも受けたい。一方で、「自転車のマナーが悪い」「バスや電車の乗車マナーが悪い」などお叱りの電話もいただく。「宮農はどんな教育をしているのか?」と言われると残念で仕方がない。

電話の内容が「良い話」「悪い話」どちらも生徒が成長していく中で必要だ。一本の電話には単に用件を伝えるだけでなく、地域の方々たちが本校の向上を願ってくれている愛情がそれぞれの電話にはあるのだ。



る。一輪車を押して行商に望む姿は結構販売であるが、地域の方々に生徒たちがしんでいただけてだけでなく、対面販売をして広浦時代から行っていることだ。本の電話が地域の方からあった。内容は生懸命に販売する姿が今時の高校生にならった」であった。こうした内容の電話

～ 投稿募集 ～

農場便りに載せたい記事があれば農場部 川口まで

## (不定期掲載) 教えて!先輩! 今回は「農業経営」を教えてください いる日下先生に宮農の大先輩として当時の様子を聞いてみました。



日下先生



私は宮農に**昭和34年**に入学しました。私が学んだ校舎や農場は、仙台市太白区長町根岸（現在は宮城県武道館・宮城県仙台南高等学校）にありました。

高校時代の3年間は、今振り返って見ると、人生で**一番良い時代**だと思っています。

仲間と学習・部活・実習等を**苦しみながらも**、みんな仲良く楽しく、過ごしたことは一生忘れません。現在の実習は、田畑の耕起・中耕等は主に農業機械で行っていますが、私の時代は、田畑の耕起から収穫までの一連の作業は、全て**手作業**で行いました。腰を曲げながら慣れない鍬を使い、手には血豆を作りながら作業をしました。最初の頃は、腰が痛くて痛くてたまりませんでした。慣れるにつれ、腰の痛みも無くなり、血豆も出来なくなりました。

私は畜産科でしたので、毎週、各自バスに乗って仙台市太白区鉤取の上野山の畜産科農場（現在は上野山小学校）に移動し、家畜管理や飼料作り等の実習を行いました。

入学当時、農場は未だ松の木等の雑木林でしたので、木を伐り、根っ子を開墾鍬で掘り起こし農場にしました。暑い日は上半身裸で作業を行い、飲み水が少なく、一人**コップ2杯**までしか飲めませんでした。

この**3年間**で、私は実習などを通し、忍耐、根性、協力、努力、勤労の尊さ、成せば成る等、多くの事を学びました。この宮農で学んだことが、後の人生で大変役立っています。

（上段左：現在の日下先生 上段右：教員2年目の日下先生  
中段：高校3年生 下段：豚の解体実習ちなみに左手前が日下先生です。）

### 農業法人に行ってみて

### ～SPHの取組み～

### 実習助手 千葉 拡

7月から始まったSPH初年度の取組み農家訪問。これまで3つの農家訪問をさせていただきました。今回初めて農業生産法人株式会社GRAさんを訪問しました。巨理町にあるGRAさんは2011年7月創業と若い企業でイチゴ、トマトを主に栽培しています。起業をなぜしたのか、どのような人材が今現在必要なのか?など話を伺いました。GRAの代表が元IT関連の方ということもあり、違う角度から農業を見ているように感じました。戦略グループなどもあり営業専門方が取引先からの要求を生産部門で答えるなど会社として組織自体がしっかりして、他にも南インドプロジェクトとして現地で日本のパテント切れのイチゴの品種を持ち込み生産していることやITを活用して現地と生産指導などをこちらからしているなど色々な試みをしていました。会社自体もそうですが代表、副社長も若くこれからの活躍に期待したい企業であり私自身もとても刺激を受けることができました。